

# フラスチックを使用した被覆肥料の代替技術の例

## 1 化学合成緩効性肥料の活用

ウレアホルム、IB、CDU、オキサミドなどがあります。土壤中でゆっくり分解されることで肥効が長続きし、植物の利用効率を高めます。被覆肥料と同様に減肥が可能です。

### 【注意点】

被覆肥料のような精密な溶出コントロールはできません。

スーパーIB



ウレアホルム



## 2 ドローンを活用した施肥技術

背負い式動力散布に比べ、大幅な省力と時間短縮が可能となる場合もあります。農林水産省などでさまざまな実証が行われています。



### 【注意点】

ドローン購入コストが必要です。  
高温・多湿条件では、肥料(尿素)が吸湿し施肥機が詰まる可能性があります。

## 3 硝化抑制剤入り流し込み液肥の活用

水田の水口から、灌漑水と一緒に粒状・液状肥料を流し込むことで、容易に施肥作業ができます。追肥だけでなく、基肥にも使用可能な銘柄もあります。



### 【注意点】

圃場が均平であるなど一定の圃場条件が必要です。

## 4 ペースト2段施肥技術

一定の粘性を持たせた側条施肥専用の液状肥料を上下2段に分けて施肥することで、基肥一発肥料として使用できます。ペースト肥料をポンプで田植え機に供給することで、重量物を持つことなく不安定な足場でも作業することができます。



### 【注意点】

専用田植え機の導入が必要です。